

## 神経疾患領域での核医学検査 平成26年4月

神経疾患領域の画像検査には、CTやMRIなどの形態的異常を評価する検査と、PET（※1）や従来のRI（※2）で標識されたトレーサーを用いる機能的異常を評価する検査があります。

今回紹介する三つの検査は、いずれも通常のRIを使った代表的な神経核医学検査です。市立病院放射線科で実施可能な外来検査ですので、市民の皆さんの健康増進の役に立てれば幸いです。

### 1. 脳血流シンチグラフィ

局所脳血流分布を評価する神経核医学検査です。種々の認知症においては、各疾患に比較的特異的に見られる局所脳血流低下パターンの有無を評価します。

たとえば、アルツハイマー型認知症では、血流低下が後部帯状回・楔前部(けつぜんぶ)から始まり、頭頂(とうちょう)・側頭連合野皮質(そくとうけんごうやひしつ)に進展します。レビー小体型認知症では、後頭葉の血流低下が特徴的とされています。前頭側頭型(ぜんとうそくとうがた)認知症では、前頭葉や側頭葉の血流低下が見られます。

### 2. MIBG心筋シンチグラフィ

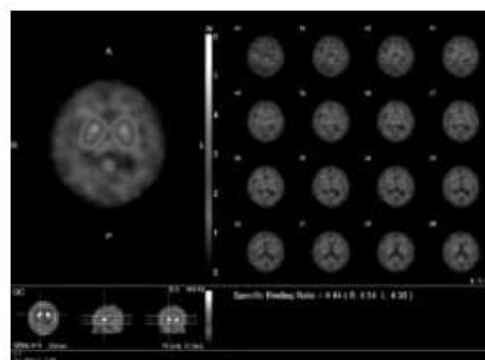
心臓を支配している心臓交感神経の機能をみる神経核医学検査です。神経性疾患のなかには、心臓交感神経に異常がある場合があって、これが診断の役に立つのです。

たとえば、パーキンソン病やレビー小体型認知症などのレビー小体病では、レビー小体が脳内の神経細胞のみならず、全身の末梢自律神経節にも広範に見られ、これを反映して心筋へのMIBG(※3)集積が低下します。

### 3. 黒質線条体節前ドパミントランスポーターシンチグラフィ (DAT-Scan)

2014年1月から日本でも実施可能となった、分子イメージング検査です。

DAT-Scanは、脳内のDAT分布を鋭敏に可視化する方法で、パーキンソン病やレビー小体型認知症などのレビー小体病や、多系統萎縮(いしゆく)症、進行性核上性麻痺などの神経変性パーキンソニズムでは、集積が低下します。一方、本能性振戦では異常所見を認めません。



▲DAT-Scan 正常像

パーキンソン症候群および、レビー小体型認知症の早期診断や、黒質線条体ドーパミン神経の変性の状態の評価に有用とされています。

〔副院長、放射線科部長滋野長平〕

- ※1 P E T . . . Positron emission tomography (陽電子放出断層撮影) の略で、放射能を含む薬剤を用いる核医学検査のひとつ
- ※2 R I . . . radioisotope (放射線同位体)
- ※3 M I B G (メタヨードベンジルグアニジン)  
. . . カテコラミン産生細胞に集積する物質

浮孔高齢者学級で『かゆみ STOP！！～皮ふを守るケア～』についてお話しさせていただく機会がありました。

皮ふは、表皮、真皮、皮下組織から成り、その役割は外界の様々な刺激から体内の組織を守り、痛みや熱さ・冷たさなどを感じ、体温の調節を行います。皮ふが体の健康を左右すると言っても過言ではないと思っています。なぜなら、皮膚は体の中で最も大きな臓器だからです。臓器というと、心臓、肝臓、胃、肺、脳・・・ですが、皮膚は忘れられることが多いようです。たしかに内臓では、肝臓が最も重いとされていますが、全身を覆う皮膚はその倍あると言われてています。

浮孔高齢者学級のみなさまにお会いしたのは2月でした。冬場、よく耳にする「かゆい」という症状。なぜ皮ふはかゆくなるのか？というところから日頃のスキンケアを見直していただきました。「体がかゆくて、お風呂でゴシゴシこする、その時はかゆみが治まりスッキリしますが、お風呂上りに再びかゆみが強くなることはありませんか？」という問いかけに、来られていた多くの方が大きくなずかれています。

皮ふが乾燥すると、衣服や寝具の擦れさえ刺激となり、かゆみが起こります。そのまま放置すると湿疹になり、治療が必要となる場合があります。そこで日常生活を見直していただき、皮ふの乾燥を抑え、かゆみのない健やかな肌になっていただこうと次の内容をお話しさせていただきました。

### ポイント 1. 『刺激しすぎない』

- ＊ ナイロンタオルなどでゴシゴシ洗わない
- ＊ 低刺激の石鹸を選ぶ
- ＊ 石鹸は泡立てて使う

### ポイント 2. 『潤いを保つ』

- ＊ 保湿剤を職場や家のあちらこちらに置いておき、塗りやすい環境を作っておく
- ＊ 保湿剤は擦り込まず、適量を掌で押さえながら馴染ませる
- ＊ 保湿効果のある入浴剤の使用

### ポイント 3. 『掻かない』

- ＊ 掻くと症状がひどくなるので、できるだけ掻かないようにする
- ＊ 掻きたくなったら、水道水で濡らしたタオルでそっと冷す

### ポイント 4. 『お部屋の乾燥に注意』

- ＊ 加湿器の使用



「1人で背中に保湿剤が塗れない！」という方も多く、ドラッグストアで販売されている背中に薬を塗る便利グッズの紹介もさせていただきました。

〔皮膚・排泄ケア認定看護師 堀井さゆり〕



## 『病診連携の会』の歩み ～10年を振り返って～

平成26年6月

『病診連携の会』は、当院のスタッフと開業医の先生たちが協力して、年三回開催しています。

この会は、平成16年に、医師会の有志の先生たちが集まり、発足しました。その目的は、医師会の先生たちと市立病院勤務の医師が顔と顔を合わせて、紹介のあった患者をどのように診断治療し、どのような結果を迎えたかを情報交換し、検討することです。

すなわち、市立病院のスタッフと開業医の先生たちが、10年間にわたって患者さんを中心にした『病診連携の会』で、地域の医療の充実を図ってきたこととなります。

本年3月22日には10周年の記念大会となる『第30回病診連携の会』を開催しました。

この10年の間には、「新型インフルエンザの検討会」や「医療機関の防災対策の検討会」などの取組もあり、内容に応じて、行政サイドから関係部局の職員も参加しました。

また本来の趣旨から少し外れたような、講義的な症例発表のような内容も多かったように思いますが、毎回多くの先生たちが集まって、活発に意見を交換し合うことができました。

現在、奈良県では数多くの病診連携の会が開催されています。その中で、この会は、まさに県内ではパイオニア的な存在であると、改めて振り返ることができる感慨深い記念大会となりました。

記念大会の当日は、奈良県立医科大学第3内科教授の福井博先生による特別講演がありました。特別講演の内容は、「肝癌撲滅をめざす病診連携」という内容で、記念大会にふさわしく、充実したものでした。

わたしたちのおこなっている『病診連携の会』は、今後、医師会の先生たちだけでなく、中和地域の歯科医師・衛生士、在宅医療の関係者や訪問看護施設のスタッフなどの、多くの職種の人たちとも連携していく予定です。在宅医療など、さまざまな問題に取り組み、この会を盛り上げていきます。

患者を中心とした地域医療における連携の輪が、さらに広がっていくことを楽しみにしています。

〔地域医療連携センター長（副院長）岡村隆仁〕

# 糖尿病透析予防指導管理～あなたの大切な腎臓を守るために～

平成26年7月

平成24年から、糖尿病で腎機能が悪化した人（糖尿病腎症）を対象に、医師・看護師・管理栄養士が共同して指導を行い、透析が必要となる前に予防する『糖尿病透析予防指導管理』という診療が開始されました。

国を挙げての糖尿病対策です。

今回は、本院の糖尿病チームが行っている『糖尿病透析予防指導管理』について、紹介します。

糖尿病腎症から透析へ移行するのを予防するための目標には、「血糖コントロール」と並んで、「血圧コントロール」が挙げられます。そのためには「野菜をたっぷり食べましょう」、「塩分は控えましょう」、「軽い運動を行いましょう」、「家庭でも血圧を計りましょう」など、お馴染みのフレーズですが、本当にこれらの積み重ねが大切なのです。食事療法も運動療法も大切であると理解できても、継続するのは難しいものです。そこで、糖尿病チームでは、繰り返し話をするすることで、継続して取り組んでもらえるのではないかと、次のように考えました。

- ① 一回きりの指導としないで、診察に来られたら、待ち時間を利用して、糖尿病透析予防指導をセットにして、繰り返し話をするようにしています。
- ② 「またか」と飽きられないように《あなたの腎臓をまもる10のおはなし》として、10回で完結するようにし、一回の時間は短く、そして毎回違うテーマを聞いてもらえるよう工夫しています。  
10回で完結ですが、希望があれば、もちろん何回でも繰り返し指導をします。  
今までの最高指導回数は16回で、現在も継続中です。
- ③ 塩分については、「計っては無いけど、控えているつもり…」、「慣れてしまって、実際に減塩できているかどうか分からない」といった言葉をよく耳にします。たしかに、指導を行っていても、実際に家でどこまで実行できているのか、とても分かりにくいものです。そこで、昨日摂取した塩分量が、当日朝の尿検査で、おおよその数値が分かる尿試験紙を使用し、「14 g」・「6 g」と具体的に示すことで、食事を見直したり、あるいは自信を持ってもらうきっかけになればと考えています。
- ④ その他、不安を感じたときには、気軽に電話でのサポートが受けられる「メンバーカード」の発行や、指導日の1～2週間前には、「次回指導日のお知らせハガキ」の送付、指導期間中に誕生日を迎えた人への、「お誕生日カード」の送付なども行い、血糖コントロール、血圧コントロールを継続して取り組んでもらえるようにしています。

最近では、患者さんから、「ここでまた話ができると思ったらがんばれる」、「何回でも同じ話を聞けるから安心」といった嬉しい声もいただき、私たちスタッフの励みにもつながっています。

糖尿病透析予防指導を受けるにはいくつか条件がありますが、興味を持った人は、当院内科外来へ問い合わせてください。

〔糖尿病チーム管理栄養士 山本友香〕

## 放射線治療始めます 平成 26 年 8 月

現在のわが国は、高齢化が進み、がん罹患患者数および死亡率も右肩上がりの状況です。

国民の二人に一人が、がんにかかり、三人に一人ががんで亡くなると言われ、がん対策は重要な医療政策の一つです。

そのような状況の中で、放射線治療は、コンピュータの進歩と、放射線治療スタッフの技術の高度化に伴って、低侵襲かつ、高精度ながんの治療方法となり、患者の身体への負担が、非常に少なくなっています。

このため、高齢の患者や、合併症があつて手術が受けられない患者へも施行が可能となり、近年関心が高まってきています(図1)。

当院では、今まで放射線治療装置および、治療を行うためのスタッフの運用体制が無かったため、放射線治療が必要な患者は、他院へ紹介せざるを得ませんでした。

そのため、患者は大変不便な想いをしていたと思います。

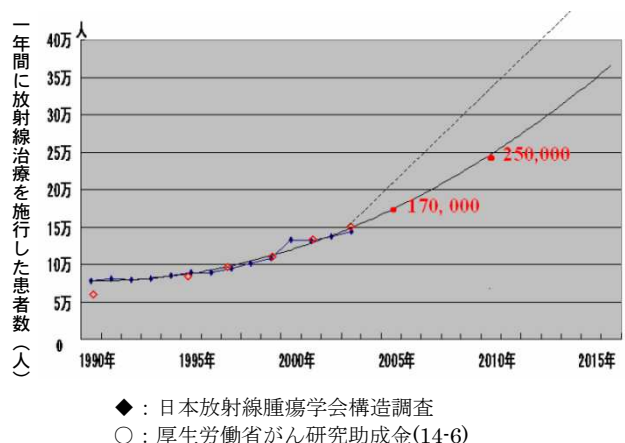
このたび、当院でも放射線治療を始めることになりました。現在、そのための準備を着々と進めており、2015年(平成27年)後半からの診療開始を予定しています。

治療内容としては、根治目的の照射はもちろん、手術後の予防的照射もできますので、外科手術や化学療法と合わせて、集学的ながん治療が可能となります。

当院が準備をすすめている放射線治療の特徴の一つは、安全に治療を施行するために、医学物理士が常勤していることです。医学物理士は、医師と協力して治療計画を作成し、装置の精度管理を行う、放射線治療の専門職です。近年の原発事故で、「放射線=怖いもの」という印象を持った人が多いと思いますが、医学物理士が医師や放射線技師と協力し、日々の点検・精度検証で安全を担保します。

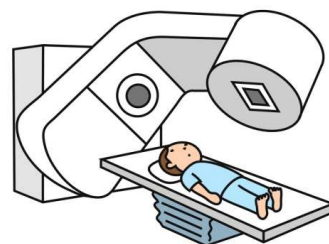
放射線治療は、医療スタッフの指示に従って、治療時間(10~20分)の間は動かないようにじっとしているだけで、痛みも熱感も無く終わってしまう、非常に身体への負担が少ない治療方法です。

放射線腫瘍医・放射線技師・看護師・医学物理士が協力し、安全で高精度な治療を提供できるよう頑張りますので、よろしくお願いします。



◆ : 日本放射線腫瘍学会構造調査  
○ : 厚生労働省がん研究助成金(14-6)  
図1 年間新患放射線治療症例数の推移予測  
(厚生労働省がん研究助成金計画研究班(10-17,14-6)より抜粋)





## 癒やしの環境作り ホスピタルアート活動 平成26年9月

大和高田市立病院環境整備委員会では、患者や家族にとって、少しでも心を癒すことが出来る環境作りに、取り組んでいます。今回は、その中でも特に継続的に取り組んできた「ホスピタルアート」について紹介します。

平成22年8月に、「ホスピタルアート」と称する壁画を市立病院1階小児科外来待合付近に制作しました。テーマは「躍動する命と自然」で、陸地から海で生きる動物の世界でした。続いて「ホスピタルアート」第2弾として、平成24年8月に病院西口玄関から受付に続く廊下に壁画制作を行いました。「ワールド：world」というテーマです。どのような絵を描くのか、本院環境整備委員会と奈良芸術短期大学の講師、学生さんたちと何度も協議検討しました。高さ2.4メートル、長さ30メートルの壁面に、トリックアートの要素も微妙に取り入れ、子どもから大人や、高齢の人にも見て触れて、楽しんでもらえるようなリアルタッチの動物や鳥、昆虫の絵を描きました。

この通路は、病院に来院する人のほとんどが利用します。来院者は足を止めて、「生き生きとしたやさしい絵で親しみやすく、心が落ちつく」と、和やかな表情で見入っています。

そして今回の「ホスピタルアート」第3弾は、平成26年3月13日に完成しました。テーマは「ひだまり」です。

壁画制作の場所は、病院のB館2階産婦人科病棟の新生児面会室付近です。今回も今までと同じくボランティアで、奈良芸術短期大学・洋画コースの学生たち8人が、廊下壁面に、



「ホスピタルアート」を制作しました。「生まれてくる赤ちゃんが、幸せになりますように」と願いを込め、赤ちゃんの誕生を祝福する新生児との面会の場面にふさわしく、パステル調で動物の赤ちゃんが祝福しているような、優しい画風に仕上がりました。また、婦人科の患者さんにも「心が癒される。ずっと見ていたい」と好評です。

「ホスピタルアート」の製作は、賛同していただいた大和高田ロータリークラブの社会奉仕委員会事業から制作費の寄付を受け、奈良芸術短期大学の学生ボランティア、そして病院職員のカンパで実現しています。

画材は環境に配慮して、有害物質を含まない、アクリル絵の具を使用しています。市立病院では今後も、「ホスピタルアート」を含めた「癒しの環境づくり」に取り組んでいきます。

環境整備委員会委員長（看護局長） 飯尾美和

メディカルショートステイ超高齢化社会が進行している現在、当院の患者さんの中にも、在宅で介護を受けている人が急速に増えています。

政府も、団塊の世代が高齢者になる、いわゆる 2025 年問題を前に、在宅医療の推進を掲げています。しかし、核家族化による老老介護や、シングル介護（一人で親の介護をする）などのケースが増え、介護する側の負担が増すばかりです。

そのような状況の中で、当院は地域の中核病院として地域医療に貢献するため、平成 20 年度に、在宅で療養しているが、病状に不安のある 75 歳から 106 歳までの 13 名の患者さんに年末から年明けまで入院してもらいました。入院中に CT、腹部エコー、心エコー、胃瘻カテーテル交換などの検査や医学的処置を行いました。

この後、患者さんの家族からは、  
「気管切開や胃瘻（いろう）をしていると、介護施設ではなかなか受け入れてもらえない」  
「久しぶりに一泊旅行に行かせてもらえた」  
という意見や、患者さんの『かかりつけ医』からは、  
「診療科に紹介するほどでもなく、画像検査等をしてもらえるのがありがたい」  
「往診のみで対応しきれない症例もあり、たいへん心強い」  
などの意見をいただきました。

この経験をもとに、当院では、診療科の枠を超えた院内の全医師が所属する「在宅医療支援科」を平成 21 年 4 月に開設し、「メディカルショートステイ」を開始しました。

「メディカルショートステイ」は、在宅では困難な諸検査や、医療処置を行うことを目的とするとともに、その期間には介護者が休息（レスパイト）することができるので、介護者の負担軽減を図ることができます。

対象者は、地域の医療機関で在宅療養を受けていて、在宅では困難な諸検査や、医療処置が必要な患者さんや、医学的管理が必要なため通常のショートステイ入所が困難な患者さんなどです。

ただし、対象者かどうかの判断は非常に難しいので、申し込みの際は、必ず『かかりつけの医』からの紹介状を添えてください。

当院の「メディカルショートステイ」は、年間延べ約 100 名の患者さんに利用されています。また、最近では奈良県神経難病ネットワーク事業にも協力しており、筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経難病の患者が増加しています。

「メディカルショートステイ」を詳しく知りたい場合は、市立病院地域医療連携センターまで問い合わせてください。



今回は、市立病院産婦人科で実施している『助産師外来』を紹介します。

『助産師外来』では、文字どおり、助産師が妊婦さんの健診を行います。

ゆったりとした雰囲気の中で、家族と一緒に、妊娠中の気になることや注意すること、また、ちょっとした出来事などを、気軽に助産師に相談することができます。

#### ◎助産師外来

▽**健診日** 月・火・木・金曜日の午前中のみ

▽**ところ** 市立病院産婦人科病棟内の助産師外来専用室

▽**内容**

- 超音波エコーで、赤ちゃんの様子を家族で見ることができます。
- 異常があれば、医師の診察を受けていただきます。

▽**対象者** 医師が許可する妊娠14週前後の妊婦さん

▽**健診料** 1回 4,000円

▽**申込方法** 産婦人科外来で、予約を受け付けています。

※妊婦健診審査受診票が使えます。

#### ◎助産師外来を受けた妊婦さんの声

- 「ゆっくり赤ちゃんに会えて、すごく楽しい時間を過ごせた」
- 「落ち着いた雰囲気の中で、ゆっくり話をするのができ安心した」
- 「助産師外来の回数をもっと増やしてほしい」など、とてもうれしい声が寄せられています。

#### ◎担当した助産師の声

助産師外来でゆっくりとした時間を設け、妊婦さんに関わっていると、マタニティライフやどういったお産がしたいかなど、患者さんの思いを直接知ることができます。患者さんの思いに沿った関わりを行うことで、助産師外来を開設してよかったと思います。

### ◎助産師外来のこれから

現在は、妊娠14週前後の人を対象として、妊娠初期における保健指導を行っています。

今後は、32週前後の人を対象にして、直近に迫ったお産や、育児などの相談も行えるようにしていきたいと思います。助産師外来での私たちの関わりによって、少しでも妊婦さんや、家族の妊娠中に抱える様々な不安が解消され、安心したお産につながるよう、取り組んでいきたいと思います。

また「助産師外来（妊婦健診）」のほかに、「母乳外来」や「育児相談」も行っています。ぜひ、利用してください。



産婦人科病棟内助産師外来の  
超音波エコーとベッド



助産師外来専用室の  
ドアを開いた所

【産婦人科病棟師長 助産師 西原 八重美】

当院では、平成22年からリンパ浮腫外来を開設し、リンパ浮腫指導技能者の資格を持つ看護師が、担当しています。

## ○リンパ浮腫とは

リンパ管に障がいがある場合に、皮下組織内の水やたんぱくなどからなる老廃物を回収する能力が低下します。そのため、老廃物が組織内に蓄積され、過剰に溜まった状態をいいます。

## ○リンパ浮腫の種類と原因

原因は明らかではありませんが、リンパ管やリンパ節の先天的な発育形成不全によると言われている原発性リンパ浮腫（リンパ浮腫全体の約10%）と、がんや悪性疾患などの治療によって、リンパ節が影響を受け発症する続発性リンパ浮腫（約90%）とがあります。

続発性の場合、治療後、比較的早期に発症するケースと、10年以上経過してから発症するケースがあります。

## ○リンパ浮腫の症状

初期の段階では、自覚症状がない場合もありますが、症状が進めば、指で押すと指の跡がつき、重症化すると皮膚は硬くなり、押してもへこまなくなります。

腕の場合、腕全体が重たく感じる、手指のこわばりを感じる、握力が低下するなど、日常生活に支障をきたすようになります。また、しわが減少し、血管が見えにくくなり、左右の腕の太さに違いがでてきます。

脚の場合、いつものように歩いていても、疲れやすくなったり、足の皮膚がかさかさ乾燥したり、ちょっとした段差でつまずいたり、足が思うように上がらないなどの症状があります。

特に、左右の脚の太さに違いがでてきます。

## ○診断

リンパ浮腫が気になる人は、当院の総合案内で相談してください。

その後、それぞれの診療科の医師に、リンパ浮腫であるかどうか診断を受けてもらいます。

## ○リンパ浮腫外来での指導

自身でケアが続けられるように、個別に次のような内容の指導を行います。

- 1、スキンケア：皮膚の乾燥を防ぐための保湿、皮膚の清潔さを保ち、炎症や感染を抑止するための指導をします。
- 2、圧迫：皮膚を圧迫するための着衣や包帯などを紹介し、それらの使用、装着方法を指導します。
- 3、運動：皮膚を圧迫した状態での運動を紹介し、継続してできるように、生活の一部に取り入れた方法を指導します。
- 4、リンパドレナージュ（リンパマッサージ）  
：皮下組織内に滞ったリンパ液を、手で深部リンパ管へ誘導できるように指導します。
- 5、生活指導：皮膚を傷つけないように、個人の生活指導をします。
- 6、ダイエット指導：体重の増加がリンパ管へ悪影響を及ぼすため、体重のコントロールについて指導します。



【看護師 松井 文子】

当院の「地域医療連携センター」は、地域の医療機関や保健機関、介護関連施設などと連絡を取り、患者さんが安心して治療に専念できるように努めています。

今回は、現在当センターが力を入れている『**医科歯科連携によるがん患者さんの口腔ケア**』について紹介します。

がんは、1981年以降、日本人の死因の第1位となっています。

がん治療は、近年めざましく進歩していますが、どのような抗がん剤を使用しても、副作用は避けられません。患者の40%の人に口のトラブルが起こり、そのうちの半数の人には、重度の口内炎が発症します。これによって、治療の延期や、薬の量が変更される場合があります。

意外に思われるかもしれませんが、放射線治療や抗がん剤治療をすると、重度の口内炎、歯肉の腫れや味覚障害などの副作用があらわれます。

これらの口の中のトラブルは、口の中の衛生状態が悪い人に起こりやすく、予防的な口腔ケアでその症状を軽くすることができます。このため、がん患者さんの口腔ケアを、病院と歯科が連携協力して行っています。

市内には、37の歯科医院があります（当院との連携協力歯科医院は28医院）。

平成25年から26年度にかけ、「大和高田市口腔機能管理医科歯科連携研修会」を、計5回開催しました。口腔ケアの重要性（手術後肺炎をはじめとする、術後合併症の症例など）を理解し、治療前の歯科受診を奨励しています。

主治医は、患者さんが歯科を受診し治療するために、傷病名・紹介目的・治療予定・治療経過・ビスフォスフォネート（BP）製剤〈骨病変の進行を抑える薬〉・ステロイド剤の使用などの情報を記録した「診療情報提供書（紹介状）」を作成し、歯科医院へ提供します。

また、歯科医師に、当院に入院している患者さんのところまで、往診に来てもらう場合もあります。

病院医療者と地域歯科が協力し、治療が効果的になるよう努めています。



口腔機能管理研修会（医科歯科医師、他職種参加による）



## ◎口腔ケアとは

広義には、口腔のもつあらゆるはたらき（咀嚼・嚥下・発音・呼吸など）のケアを意味する。狭義では、口腔衛生の維持・向上に主眼をおく、一連の口腔清掃を中心とした口腔ケアをさす。

### 『がん治療を受ける患者さんの口腔ケアの流れ』

#### 【ポイント①】

かかりつけ歯科医院を定期的を受診し、入院前から、いつも口腔ケアをしておきましょう。

#### 【ポイント②】

がんと診断されたら、がん治療を始める2週間前までに、歯科を受診し、口腔ケアをしましょう。

#### 【ポイント③】

がん治療と並行して、口腔ケアをしましょう。

#### 【ポイント④】

退院後も、口腔ケアを続けましょう。

〔地域医療連携センター副センター長 山本こずえ〕

今回は、当院のオストメイトサロン“そよかぜ”について、紹介します。

『そよかぜサロン』は、2010年に発足し、今日までで計10回開催してきました。

## 1. オストメイトとは

「ストーマ保有者」のことで、がんや事故などが原因で消化管や尿路が損なわれたため、腹部などに排泄のための開口部（ストーマ）である「人工肛門」や「人工膀胱」を造設した人のことを、オストメイトといいます。ストーマを造設すると、失われた「腸」や「膀胱」の代用として、ストーマ装具という排泄物を貯留するための装具を使用して、日常生活を送っていくことになります。そういった生活の中で生じてきた疑問や悩みを分かち合い、オストメイトや、そのご家族の情報交換や交流を深めることを目的に、年に2回（春と秋）『そよかぜサロン』を開催しています。

## 2. 参加された人たちの声

『そよかぜサロン』では、その時々テーマに沿った、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・栄養士といったコメディカル（医療従事者）のミニレクチャーを聴講したり、集まった皆さんで和やかな雰囲気の中、お互いに自由におしゃべりしたり、楽しい時間を共有しています。

過去、『そよかぜサロン』に参加した人からの声を紹介します。

### Q1 どのようにしてオストメイトサロンを知りましたか？

ストーマ外来（32%）、掲示板（24%）、ダイレクトメール（14%）、その他（14%）、広報誌（10%）、Webサイト（6%）

### Q2 あなたの属性は？

消化管ストーマ（62%）、尿路ストーマ（17%）、家族（19%）、その他（2%）

### Q3 参加して良かったですか？

とても良かった（56%）、良かった（41%）、ふつう（3%）その他にも、「みんなと話ができて良かった」「自分だけじゃないということがわかり、励みになった」「医師・看護師・オストメイトが一同に会し、気軽に話し合えて良かった」といった意見や、まだ入院中の患者さんからは「退院後の自分の生活がイメージできた」、手術をこれから受ける患者さんからは「これで手術を受けようという気持ちになった」といった、嬉しい意見が多数寄せられています。

### 3. ストーマ外来

『そよかぜサロン』の他にも、ストーマ装具を使用するにあたってのコツや、ストーマ周囲の皮膚トラブルに関する相談を受け付ける「ストーマ外来」があります。

- 毎週水曜 午後1時から（1名約60分 完全予約制）次回の開催は、5月ごろを予定しています。当院に通院していない人や手術を他院で受けている人、家族の人だけでも大歓迎です。気軽に参加してください。  
一人でも多くの人にお会いできることを、心より楽しみにお待ちしています。

〔WOC（皮膚・排出ケア）認定看護師 吉川由紀〕

「中和のがん撲滅をめざそう」と立ち上げたこの会も、10年目を迎えました。

乳がん、胃がん、大腸がん、肺がん、肝がん、泌尿器領域のがん、婦人科領域のがんと、さまざまながんの勉強をしてきましたが、今回のテーマは、「遺伝性のがんについて」です。

最近の研究によって、がんは遺伝子の変異によって起こる病気であることがわかってきました。つまり、がんは遺伝子病とも言えます。しかし、多くのがんは、親から子へと遺伝するわけではありません。大部分のがんは、年齢を重ねるにつれて遺伝子(DNA)に傷がつくという、後天的な変化が原因になっています。生まれながらに遺伝子に変異があり、この変異が親から遺伝した場合に限り、遺伝病とも言えます。

「遺伝子」と「遺伝」は、言葉が似ていますが、しっかりと区別して考えなければなりません。

細胞は、分裂して増殖していきますが、それぞれの細胞にはきちんと寿命が決められています。しかし、遺伝子に傷ができると、細胞が死滅することなく、増殖を続けることになります。これががん細胞で、もとの人間が命を落とすまで、増殖し続けます。高齢になるほど、またタバコなどの発がん物質に接触するほど、遺伝子が傷つきやすくなります。

それに対し、もともと遺伝子には、傷を治す働きがあります。遺伝子に傷ができて、その都度、元に戻すことによって、がんになるのを防いでいます。しかし、遺伝性のがんの患者さんは、生まれつきこの遺伝子の傷を治す働きが弱く、がんを発症してしまうのです。代表的な遺伝性の病気として、家族性大腸腺腫症、遺伝性非ポリポージス大腸がん、遺伝性乳がん卵巣がん症候群などがあります。

#### 「第10回中和のがん撲滅を目指す会」

▽とき 3月14日(土)

▽ところ さざんかホール

▽講師

順天堂大学遺伝相談外来

田村智英子 先生(認定遺伝カウンセラー)

〔中和のがん撲滅を目指す会 幹事 岡村隆仁〕